

中学校教師による社会科地理的分野（北海道地方）の教材研究—2枚の写真を通して

森林などの自然環境を生かしたまちづくり

作成：東 岳史（あづま たけし／北海道教育大学附属札幌中学校 教諭）*

寸評：山下宏文（やました ひろぶみ／京都教育大学 教授）**

語り：「北海道で見られる有名な樹木と聞いて、みなさんは何を思い出しますか？ そうですね。エゾマツやトドマツ、アカエゾマツといった針葉樹林をよく耳にします。写真①を見てください。これは、冬の大雪山系の森林です。普段は黒々としている針葉樹林に、真っ白な雪が覆いかぶさっています。そのコントラストから、荒々しい中にも美しさを感じずにはいられません。とても寒い日の朝には、「パァーン」という轟音が響くことがあるそうです。これは、凍裂というもので、トドマツをはじめとする樹木において、急激な気温の低下により樹幹が縦に裂ける際に生じる音です。北海道の大自然を求めて、マイナス20～30℃に

達するこの時期でも、観光に訪れる人々が絶えないということがよくわかります。

さて、もう一枚の写真②を見てもらいたと思います。先ほどの写真と比べて、どんなところが違いますか？ 写真では見にくいのですが、葉の形がずいぶん違います。先ほどの写真①とは一転して、緑が多く茂った広葉樹林が広がっていますね。これはブナの林で、黒松内町の歌才という場所のものです。札幌から車で2時間半ほどで着く黒松内町は、渡島半島の付け根の部分にありますが、みなさんは訪れたことがありますか。実は、先ほどの大雪山系のように、ここ黒松内のブナ林にも、毎年多くの方が訪れます。ブナといえば、



◀写真①
冬の大雪山系の針葉樹林

写真提供：北海道森林管理局十勝西部森林管理署東大雪支署（Tel 01564-2-2141（代表））

*東 岳史 〒002-8075 札幌市北区あいの里5条3丁目1-11 Tel 011-778-0481

写真提供：黒松内町ブナセンター

同センターは、黒松内の自然や文化を生かした研修を行う際の相談窓口として「学校教育部」を開設している。
(Tel 0136-72-4411)



▲写真② 新緑のブナ林（黒松内町・歌才）

現在日本に残っている自然林の中では最も広い面積を占めていますが、その北限が黒松内町であり、ここのブナ原生林は、国の天然記念物に指定されています。「なぜ、ブナの分布がこの黒松内町で止まり、これ以上北にないのか…」。この疑問には諸説あるようですが、はっきりと解明されていないのも、人々を惹きつける魅力となっているようです。さて、黒松内町の方々はこのブナ林に対してどのような想いを持っているのでしょうか。歴史をたどっていくと、伐採の危機が幾度となくありましたが、毎回それに対し町民が守ったと

いう経緯があったそうです。そして、昭和63年からは『ブナ北限の里づくり』と題して、自然の研究や調査内容の展示、自然体験宿泊施設などの整備がなされています。さらには、民間企業では、ブナを冠した酒造業も行われています。ブナ林を大切にし、ともに生きようとする想いが伝わってきます。

このように、森林など自然環境を生かした町づくりや観光業を行っている魅力的な地域が、北海道にはたくさんあります。これからみんなで学習していきましょう。」

意図（東）：北海道地方の学習を、自然環境を中核とした観点から進めていくにあたり、北海道の森林の写真を取り上げた。1枚目の冬の大雪山系の写真からは、森林が持つ魅力を大いに感じるとともに、北海道の雄大なイメージを喚起させたい。また、2枚目の黒松内・歌才のブナ林の写真からは、新緑の美しさや自然が持つ繊細な部分も伝えたいと考えた。そして共通することとして、その地域に住む人々が森林を大切にし、その魅力を多くの人々に伝えるとともに、自然と共生している姿に気付いてほしいと願う。

寸評（山下）：中学校社会科地理的分野では、日本の諸地域の地域的特色について自然環境を中核にして考察させる内容がある。自然環境に関する特色ある事象としては、地形や気候などへの着目を中心となるが、地形と気候の諸条件の中で具体的に形成された森林を取り上げ、それと人々の生活や産業との関係を考えることにより、生徒の認識をより深めることができるだろう。

＊ ＊ 山下宏文…〒612-8522 京都市伏見区深草藤森町1 Tel 075-644-8219（直通）